

インターバンクの声（2017年6月5日）

前日に公表されていたADP社の全米雇用統計が市場予想を大きく上回る25万3千人の就業者数増と極めて好調な結果だったこともあり、金曜日の米労働省が発表する雇用統計が悪化するという予想は本当に少なかった。

金曜日の雇用統計予想は、ADP雇用統計での就業者数増予想とほぼ同数の18万人だったが、結果は13万8千人。しかも前回の21万1千人の結果も17万4千人に下方修正された。

それでも賃金の上昇さえ確認出来れば市場の反応も抑えられたはずだが、こちらも前年同月比では市場予想を下回った。何人かの連邦市場公開委員会メンバーも指摘しているように、これだけの低失業率の中で10万人超の就業者の増加継続は労働市場の堅調さを確認するには十分なはずだが、市場はADP雇用統計結果とのギャップが大きかったことに強く反応してドル売りに動いたようだ。雇用統計の発表前までは100%近かった6月の利上げ予想も90%程度に下落、9月の利上げや年内のバランスシート縮小については可能性が著しく低下したとの見方が広がっている。ドル円の4月下旬以来となる110円を割れるかどうか気がなる。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。